

# インパクト志向金融宣言

Japan Impact-driven Financing Initiative

## 第12回ワーキングレベル会合が開催されました

インパクト志向金融宣言の第12回ワーキングレベル会合が2024年11月5日(火)9:30~11:30に、対面・オンライン形式にて開催されました。当日は署名機関、国内の賛同機関から対面で45名、オンラインで45名が参加しました。

第12回ワーキングレベル会合は、以下のアジェンダで報告や議論を行いました。

1. 定足数確認・議長選出
2. 新規署名機関の紹介
3. 報告事項
  - (1) (第1号決議事項)事務局からの報告事項
    - 1 プログレスレポートの進捗
    - 2 次年度の運営委員選出
    - 3 1月29日のカンファレンス
    - 4 自走化に伴う法人化の要否
    - 5 署名継続意思確認アンケートの実施
    - 6 金融グループにおける署名機関の確認
    - 7 運営委員会の改組
    - 8 コンテンツ運営委員会 オブザーバ参加メンバー
    - 9 インパクトパフォーマンス報告規範のパイロットプログラム
    - 10 インパクトコンソーシアムの進捗
    - 11 2024年度監査のあり方について
  - (2) (第2号決議事項)分科会/企画チーム活動報告
4. 審議事項:本宣言の活動の振り返りと来年度の注力分野について
5. 今後の予定、事務局連絡



- 定足数・議長選出

決議にあたり、出席署名機関数が、リアル出席27機関、オンライン23機関で出席機関数が50機関となり、総出席署名機関数76の過半数を超えているため、定足数を満たしていることを確認しました。

議長は推薦により岡本氏（農林中央金庫）、森江氏（環境エネルギー投資）が選出されました。

## ● 新規署名機関の紹介

前回のワーキングレベル会合以降、2024年8月～11月に新たに署名した機関にご挨拶頂きました。11月5日時点で署名機関数は計83社となりました（署名金融機関76社、署名協力機関7社）。

### 【新規署名機関】

（9月1日付）株式会社ゆうちょ銀行

（10月1日付）大同生命保険株式会社、太陽生命保険株式会社

### 【署名協力機関】

（11月1日付）Ridgelinez株式会社

## ● 報告事項

### 【第1号報告事項/事務局からの報告】

事務局より、以下の11点に関する事務連絡を行いました。

- (1) プロGRESSレポートの進捗
- (2) 次年度の運営委員選出
- (3) 1月29日のカンファレンス
- (4) 自走化に伴う法人化の要否
- (5) 署名継続意思確認アンケートの実施
- (6) 金融グループにおける署名機関の確認
- (7) 運営委員会の改組
- (8) コンテンツ運営委員会 オブザーバ参加メンバー
- (9) インパクトパフォーマンス報告規範のパイロットプログラム
- (10) インパクトコンソーシアムの進捗
- (11) 2024年度監査のあり方について

## < 質疑応答 >

### インパクトパフォーマンス報告規範のパイロットプログラムに関する質問

- 上場株式の報告というのは、誰が誰に対して行うことを想定しているのか。
  - まだ上場株の方は立ち上がっていないため、詳細は今後議論となるが、アセットマネジメント会社からファンドの提供先（顧客）へのインパクト成果の方向となる。
- 日本でも参加企業があるということだが、「参加」の定義とは。
  - 実際に規範を使っていただくプログラムとして立ち上げているため、「参加」とは、パイロットプログラムに参加意向を示した企業を意味している。報告規範というよりも、ガイドブックのようなものをイメージしてもらえると良い。
- 今後署名を求めるようなものを想定しているか。
  - 署名は今のところ考えていない。あくまでも活用してもらえるためのガイドブックとして考えている。ただ、すでにインパクト投資家の中には、報告規範に沿って記載した、という表現

をしている投資家も存在しているが、その時には”allowing”ではなく、”fawing”という柔らかい表現を使ってもらうように依頼している。

## 【第2号報告事項】分科会/企画チーム活動報告

各分科会の座長・副座長より活動状況を報告して頂きました。

### 【地域金融分科会】

- ✓ 中期計画の実現に向けて、今後は、PIFの調査の結果を踏まえ、さらに多くの地域金融機関がインパクトファイナンスに取り組むためのインパクトファイナンスのプラットフォーム構築に向けて動いていきたい。
- ✓ PIFの三層構造の下層だけでなく、上層「ポジティブインパクトの最大化」部分については、分析が十分ではないところがあるため、VCとの連携も行いながら共通KPIの検討ができないかと考えている。
- ✓ いずれにしてもこれらの検討結果を踏まえて地域金融分科会からそれなりの模範となるようなものをアウトプットを出したい。どのように制作するのも含めて検討していきたい。

### 【ソーシャル指標分科会】

- ✓ IMMの枠組みでSocial指標活用事例のカタログ化・構造化を目指している。
- ✓ 現時点では予定通り進捗をしているが、本分科会は横串を差しやすいテーマでもあるため、他の分科会との共創をどう図るかは悩んでいる。また、カタログ化した後のステップをどうするか、構造化に向けたアドボカシーの協力についても検討が必要と認識。
- ✓ 今後は、引き続きカタログ化に関するアウトプットにむけて取り組んでいきたい。

### 質疑応答

- ✓ 自治体の総合計画やデジタル庁のウェルビーイング指標なども参照しているか。一部の自治体ではKPIまで設定されているところもあるため、一部ソーシャル指標としても活用できるだろう。
  - まだそこまで深く検討できていない。現在は分科会の個人のメンバーの持ち込みがメインだが、この枠を広げて官民連携を含めて進めていきたい。
- ✓ カタログ化を制作されようとしているということだが、「30%クラブ」という2030年に女性役員比率30%を目指そうというイニシアチブで、同様の活動を行ったため、情報共有したい。ボトムアップの形式でカタログを作ろうとすると、いろんな企業のニーズを拾うことになり、うまくいかなかった。そのため、トップダウンで、企業理念やビジネスモデル、経営戦略から落とししていくアプローチを取り入れ、このようなビジネスであればこういう点が重要ではないかという議論でより腹落ちできる議論ができた。
  - アドバイスに感謝する。情報を集めるだけでなく、今後どのようにトップダウンの視点を含めながら、良いものにしていくのかを議論していきたい。

### 【VC分科会】

- ✓ 中期計画に対して現時点では進捗通り進めている。今後もプレイブックの策定に向けて事例共有を進めていきたい。

### 【AO/AM分科会】

- ✓ 中期計画に対して予定通り進捗している。
- ✓ また、インパクト志向企業価値向上アライアンスの分科会についても、上場企業8社の新たな参画も経て、9月に第一回の会合を行い、第二回は11月に実施予定。

## 質疑応答

- ✓ アライアンス分科会にて、具体的に議論した内容を共有していただくことは可能か。
  - インパクトと企業価値の関連性については最大の関心事だった。特に大企業については単一事業ではない。一方で、人的資本の取り組みやサプライチェーン上の取り組みなどは積極的に実施されていることもあり、これらが与えるインパクトへの影響についても考慮が必要で、インパクトと企業価値の関連性をどのような開示を求めるのかなどが議論された。
- ✓ 上場企業では、企業内部の人的資本の改善などが企業価値につながると思うが、その辺りをみていくのはいわゆるサステナブルファイナンスの領域と認識しており、そうなると、インパクト投資とサステナブルファイナンスの境界が曖昧になるのではないか。
  - 例えば、食品産業などはサプライチェーン上の改善として、農家の改善や土壌の改良などを含めて実施しており、これらは企業の外の活動なのでインパクトとして含めることもできるだろう。一方で、社内の人的資本の維持・強化に関する取り組みについては、どこまでインパクト投資の領域の範疇とするのかは論点と認識している。社内の人的資本に対してネガティブなことを実施すれば、労働市場に対してネガティブインパクトを及ぼすことになるため、その意味では対象にしても良いとは思いますが、確かに論点になるだろう。
  - 経団連でも市場ワーキンググループを行っているが、そこで企業からインパクトを企業価値に繋げるかというプレゼンテーションを行っている。そこでは、いわゆる柳モデルや、ESG指標との関連性を分析している企業や、インパクト会計にトライをしている企業が増えている。しかし、いずれも、一部の事業領域を特定したインパクト会計となっているため、企業全体の企業価値を示すものではないという点は課題。社会における人的資本や自然資本にどう影響を与えるのかという部分だけでなく、そのインパクトを与えた資本を切り取って自社の活動のインプットとするため、それが価値創造モデルの左側の資本としてどのようなインパクト創出や企業価値向上に寄与するのかという点もクリアにしていく必要があり、いずれにしても本論点は時間のかかる議論と認識している。

## 【融資・債券分科会】

- ✓ 中期計画に対して予定通り進捗している。今後は、プロダクト別のエンゲージメントの整理に取り組みたい。
- ✓ また、直近はGIINのカンファレンスへの参加を通じて、改めてインパクト投資がグローバルで目指しているテーマと、デッドファイナンスで取り扱うインパクトのテーマの乖離が拡大していると感じているため、この点についても議論が必要と認識している。

## 質疑応答

- ✓ 乖離があるとのことだが、株式と債券・融資で、具体的にどのような乖離を感じているのか。
  - GIINのカンファレンスでは未上場株式を対象とした議論がメインであったため、日本としてはなかなか資金を向けるのが難しいグローバルのテーマ(adaptationや、genderless、financial inclusionなど)が対象とされていると感じた。一方大企業については、企業が検討したマテリアリティをベースに考えるという点で、同じコンセプトであり大きく乖離はしていないと感じた。
  - サステナブルファイナンスの考え方では原則上認められているものの中でインパクト指標の確認の仕方があるが、それが、インパクト投資の理想として目指そうとしている指標の考え方が必ずしも一致していないのではないかと感じている。
  - 融資については相対性が強いいため、債券と融資との間においてもエンゲージメントのあり方は差異が出てくると思うため、その点は是非共有いただきたい。

### 【IMMチーム】

- ✓ コンテンツ運営委員会が新たに立ち上がったことを踏まえて、コンテンツ運営委員会のなかで見えてきた横串の課題のうち、IMM分科会で落とし込むべきテーマを選定し、議論する方針である。これにより、現在は分科会の運営を中止しており、11月に再開予定。

### 【海外連携チーム】

- ✓ 中期計画に対して予定通り進捗している。10月には45名の日本・海外のインパクト投資家が集まり、GIINのネットワーキングイベントを実施した。今後もネットワーキングイベントなど企画することを想定している。

### 【定義・参入分科会】

- ✓ プログレスレポート作成中、特段の報告事項なし。

### ● 審議事項: 本宣言の活動の振り返りと来年度の注力分野について

中期計画の目標達成年度2025年まで、残すところあと1年となり、2025年1月の年度計画の策定に向けて、来年の注力点について議論を行いました。

- ✓ 長期視点で見た場合、大きな課題は二つあると考える。なお、その前提として、ゴールの共有(サステナブルな社会の実現を目指す)ができてきていることは重要。
  - その上で、課題の一つ目は、長期視点で見た時に、全体のプロGRESSはどうか、個々で積み上げた良い活動の延長線上にどんな絵を描いていくのかをクリアにしていく必要があるということ。この点については、地域を含めた行政との連携が重要であり、ポリシーエンゲージメントを含めて、検討していく必要があるのではないか。
  - また、もう一つの課題は、資本主義社会においてサステナブルな取り組みを社会に実現していくためには、プロジェクトや企業の時価評価(バリエーション)にその取り組みの評価をいかに組み込むことができるかが重要な論点となる。良いことをやっているが、どのように将来の価値に繋がっているのかを示していく必要がある。
- ✓ 2024年の活動計画の資料では、計画と分科会が紐付けて表にされているが、活動の中心はあくまでも分科会であることから、分科会が中期計画のどの部分にどう貢献しているのかを来年度はよりクリアにしていくべきではないか。例えばシステムレベルリスクについても、分科会で議論をした上でそれを持ち寄るような形式とすることも含めて検討すると良いのでは。
  - また、内閣府においても、地方創生SDGs認証評価制度というものがあるが、この制度においては、自治体が地域企業の評価軸を作っている。今年度は内閣府の委員会にて先行事例をまとめて発表される予定。このような活動は他にもあると思うので、IDFIではそれらをフットワークよく、今何が起きているのかという情報を集約することができるだろう。それを踏まえて、インパクトコンソーシアムに発信していくこともできると考えるため、IDFIとインパクトコンソーシアムとの連携についても検討できると良いのではないかと。
- ✓ シンプルに、「金融業界からインパクトを創出していくことが本当にできているのか」という問いに対する現状を発信していくタイミングにきているのではないかと。個々の企業ではそれぞれで発信されていると思うが、IDFIとしてはどのようなインパクトを創出してきたのかを、何かしらの形で発表していくこと

も検討しなければならないのではないか。インパクト投資を行った金額というよりも、どのようなインパクトを創出したのかが重要。

- ✓ IDFIとして外部に発信すべき時期にきているという意見に賛同する。その意味で、現状進捗が「△」となっている、インパクト大賞のように何かしら表彰を行うことも、検討に値するのではないかと。
- また、人材育成について、ナレッジがまとまっているものについてはトレーニングが有効であり、ナレッジがまとまっていない部分についてはベストプラクティスの共有が有効。現状のインパクト投資は、一部まとまっている部分もあるため、この部分についてはSIMIさんをはじめとしてトレーニングを提供しているため活用できるだろう。それ以外の部分については、ベストプラクティスを共有していくのが良いだろう。
- ✓ IDFIに所属する署名機関が個々のインパクト投資を通じて創出したインパクトを積み上げたものをIDFIとして創出したインパクトと定義するのか、あるいは、IDFIとしての活動を通じた生み出したインパクトを、我々のインパクトとして定義するのか、しっかりと議論をするべき。
- また、コンソーシアムと連携できる部分もあるだろう。特に地域金融分科会でPIFの調査をしているが、コンソーシアムでも地域実践分科会がある。またコンソーシアムには、官民連携促進分科会もあり、ここでは経済産業省が中心となって地域の自治体を巻き込んで議論をしていく場所であるため、その動きと棲み分けだけでなく、連携していくこともできるのではないかと。

#### ● 今後の予定、事務局連絡

2025年 1月29日(水)9:30-11:30(カンファレンス同日開催)  
2025年 4月24日(木)9:30-12:00  
2025年 7月24日(木)9:30-12:00  
2025年 10月  
2026年 1月

以上

資料1:第12回ワーキングレベル会合当日資料  
資料2:自走化する宣言の法人化の要否  
資料3:2024年度監査のあり方について  
資料4:分科会報告  
資料5:インパクトパフォーマンス報告規範